



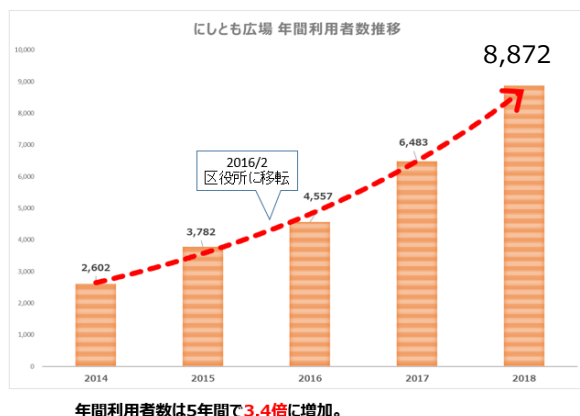
にしく市民活動支援センター にしとも広場

2018(平成 30)年度 事業報告書

管理運営：認定特定非営利活動法人市民セクターよこはま

■ 管理運営受託 5 年間の運営方針と成果

2014 年度から 2018 年度までの 5 年間、にしく市民活動支援センターを運営するにあたり、常に大事にしてきたキーワードがあります。それは、「知ってもらう」「きっかけ」「つながり」「ひろがり」です。支援センターという施設があること、そしてその機能をまずは知ってもらう。当センターに来館したり関わったことが、何かしらの活動や次のステップへと進むきっかけとなること。センターを利用する方、関係施設、団体などと当センターも積極的につながり、皆様同士のつながりを作ること。更にひろがりができること。これらを意識して運営してきた結果、利用者数は 3.4 倍、相談件数は 1.9 倍となりました。特に今年度は、当センターに足を運んでくださる方・団体が格段に増え、大変多くのきっかけやつながりを持つ場面がありました。「ここに来れば何かがある、何かが始まる」支援センターに少し近づけたと感じています。



■ 2018 年度の運営方針と成果

前年度、特に「知ってもらう」ことに注力した成果で、ある程度の周知は進みました。しかし、当センターの活用度はまだ十分ではなく、当センターも、地域資源や課題・ニーズの把握が十分ではなかったことから、今年度は、以下 3 つを重点事業とし、地域に根差し、地域に活用されるセンターを目指しました。

- 1) 地域、団体、個人に継続して対応するよう相談機能を向上させる。
 - ・ 活動団体、地域、個人からの様々なご相談に対し、「関わりシート」を作成することでその足跡を残し、職員全員で共有、継続的に、状況変化にあわせて対応できる体制をつくり、実行しました。
- 2) 地域に出向き、課題やニーズの把握につとめ、生きたつながりをつくる。
 - ・ 区内の様々なボランティア団体・NPO 法人等の活動現場を訪問し、情報誌等で取材・紹介するなど発信に努めました。

- ・ 自治会町内会の会合等に参加し、地域の情報収集に努め、課題・ニーズの把握に努めました。
- ・ 特に当センターから離れた立地の自治会町内会に「出前企画」が可能なことをお知らせし、連携して出張コンサートを実施しました。

3) 関係機関等とより一層連携し、地域資源や課題を共有し、地域の活性化に努める。

- ・ 例えば、高齢者の居場所づくり、外国につながる子どもの日本語習得・学習支援などの課題に対し、関係機関や学校関係者など、必要な機関・施設・関係者と連携し対応しました。

■ 2018 年度のセンター利用実績

前年度の重点事業にもあげた「センターを知ってもらう」ための様々な取り組みが、今年度の実績にあらわれたものと考えられます。利用件数、相談件数とも、前年度を大きく上回りました。

項目	今年度累計	前年度累計	前年度比
相談件数	857 件	546 件	157.0%
センター利用件数	3,521 件	2,740 件	128.5%
センター利用人数	8,872 人	6,483 人	136.9%

－ 事業ごとの報告 －

1. 相談事業

◆ 相談機能の充実と日頃の会話から相談につなげる

相談の基本を大切に、誠実に一人ひとりと向き合い、その方の真のニーズを引き出す力、想像する力を日々の実践や研修で高め、職員の相談力をアップすることを目指しました。その為、接遇や個人情報など、相談対応の基礎を再確認し、地域の施設や関係機関と連携を深めニーズに即した情報の提供できるよう取り組みました。

定期的に利用される方々との日常的な会話や登録時のヒアリングからも、相談につながる糸口を見つけ、適切な情報提供ができるように心がけました。

1) 相談機能の充実

- ・ 活動団体、地域、個人からの様々なご相談に対し、関わり（足跡）を残すシート「関わりシート」を作成し、継続的に状況変化に合わせ対応できるようにし、職員間で情報を共有し、適切で円滑な対応を目指しました。
- ・ 「はじめの一步じっくり相談日」「団体運営なんでも相談日」等テーマごとの相談日を設けることで、相談しやすい場づくりを行いました。

2) 相談力の向上のための取組の実施

- ・ 職員全員で行う会議において、定期的に、最近 1 か月で行った相談対応の中の、気になる事例をピックアップし情報を共有しました。また、相談内容や対応について検討し、今後に向けて、よりよい対応を考えました。
- ・ 職員研修において、相談対応における基本の 3 つのステップ（インテーク、コーディネート、クロージング）を行いました。相談場面を具体的に考えながら、対応の方法を学びました。
- ・ 活動団体、地域住民の方と共に学びながら基礎知識を高め、スキルアップを目指す職員研修を「認知症」「障害」「救急救命」をテーマとして実施しました。（知トクシリーズ）

時間・場所	テーマ・内容
2018/11/5（月） 14：00-16：00 受講者数：60 名 @西区役所 3 AB 会議室	地域で支える認知症講演会&認知症サポーター養成講座 『認知症になっても自分らしい暮らしを続けるために』 講師：高齢者 GH 横浜ゆうゆう 施設長 井上義臣さん 主催：西区役所高齢・障害支援課、にしとも広場 認知症という病気を知ることで、ご本人、ご家族、地域の方が支え合い、共に暮らしていける方法を考える。
16：00-17：00 受講者数：12 名 @にしとも広場	『講師を交えての座談会』 講師：高齢者 GH 横浜ゆうゆう 施設長 井上義臣さん 主催：にしとも広場 「もう少し認知症について考えたい」「講師の方に相談してみたい」など、井上義臣さんを交えて、ざっくばらんに話し合う。
2018/11/29（木） 13：00-15：00 受講者数：11 名 @にしとも広場	『精神障がいについて 当事者から学ぶ』 講師：生活支援センター西 利用者 生活支援センター西 施設長 永瀬誠さん 誰もが罹る可能性がある精神疾患について、生活支援センター利用者の話を伺いながら、精神障がいについて学ぶ。
2019/1/8（火） 13：00-15：00 受講者数：9 名 @にしとも広場	『いざという時役立つ 救急救命』 講師：NPO 法人 JAEA 河波弘晃さん 基本的な心肺蘇生法や、AED（自動体外式除細動器）の操作を学び、緊急時の対応を身に付ける。



2. 情報提供・発信事業

◆様々な情報提供のツールを使い、定期的、多面的に情報を発信

昨年度に引き続き、当センター及び、当センターの持つ情報や、当センターの周知をさらに促すために3つの紙媒体を活用しました。また、日常のお知らせについて、フェイスブックとホームページを併せて活用しました。

1) 情報紙『にしとも広場』（カラー冊子・全8P）の発行

- ・「はじまりはココから」をコンセプトに、年2回（9月・3月）、5,000部／回を発行しました。
- ・各号、西区で活動する活動者に、活動をスタートした原点や想いについて取材し、地域活動・市民活動のはじまりや継続に役に立つよう、わかりやすい情報として発信しました。

<特集内容>

- ・第12号：「心惹かれて はじまりはココから」
掲載団体：NPO 法人ディアナ横濱、株式会社ブルーコンパス、NPO 法人 Umi のいえ、
着ぐるみ懐メロ音楽ユニット日ノ出サンデーズ、株式会社星羊社
- ・第13号：「心惹かれて はじまりはココから Part2」
掲載団体：NPO 法人シャーロックホームズ、Friends にし、NPO 法人レスパイト・ケアサービス萌、
吉田紅峯さん、にしきシティガイドグループ



<12号>



<13号>

2) 簡易版情報紙『にしとも広場 mini』（カラーA4両面印刷）の発行

- ・表面にはトピック・お知らせ、西区街の名人達人の「来て見て聞いている日」を、裏面にはにしとも広場のイベントカレンダーや自主事業の活動などを掲載し、年4回(5月、9月、12月、3月)発行しました。
- ・情報紙『にしとも広場』と同様、自治会町内会の班回覧を活用しました。写真やイラストなどを効果的に使用し、分かりやすく、インパクトのある紙面づくりに努めました。



<7号>

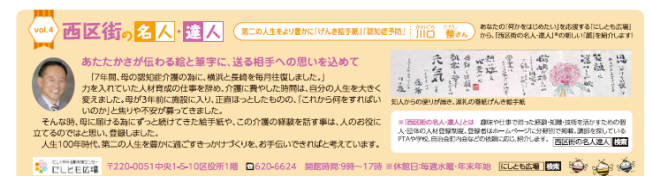
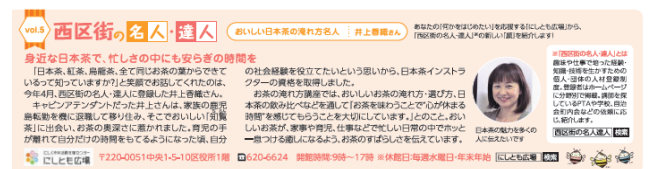
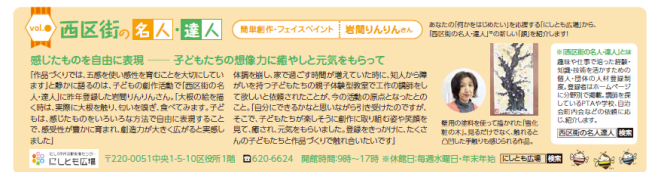
<8号>

<9号>

<10号>

3) 『広報よこはま(西区版)』を活用した定期的な情報発信

- 『広報よこはま(西区版)』コラムにて、当センター登録団体や西区街の名人・達人の紹介記事を掲載しました。
- コラムの掲載は、活動の周知のみならず、団体や個人の新規登録を促すきっかけとなりました。
- イベント特集など、広報よこはまの特集に合わせて情報を提供し、広報につなげました。



4) フェイスブックでの情報発信

- 2017年度にフェイスブックページを開設して以来、SNSを通じた情報収集が得意な世代も含めた幅広い層への情報発信ツールとして、よりタイムリーに、イベントの開催内容やにしとも広場のイベント情報を発信しました。少しずつですが、フォロー数も増加しました。
- フェイスブックページへの「いいね」数：156人(2019/3/31)
(参考：49人(2018/4/1時点))



5) ホームページでの情報発信

- ・ 地域やにしとも広場で開催されるイベント情報やボランティア募集情報など、タイムリーな情報発信を行いました。
- ・ 『にしとも広場 mini』など紙媒体では、QRコードを掲載し、ホームページの存在をアピールしたり、フェイスブックと連動させるなど、ホームページへの誘導を行いました。



6) 展示スペースの活用

- ・ 壁面ギャラリーコーナーに加え、立体作品の展示スペースとして、新たに「小箱ギャラリー」を増設しました。
- ・ 積極的に活動団体・個人に展示を呼びかけ、開催講座の見本作品や講師製作物の展示を行い、活動の周知に活用しました。
- ・ 展示作品をきっかけに、活動を始めたいと考えたり講座依頼を検討する方もありました。



3. 活動団体のマネジメント支援および、ネットワーク支援事業

◆活動がステップアップする機会や情報を提供し、より活発な活動となるよう支援

地域人材ボランティア『西区街の名人・達人』や登録団体などの活動がより活発になり、地域でも活躍の場が増えるよう支援しました。

< 1 > 地域人材ボランティア事業『西区街の名人・達人』（以下『西区街の名人・達人』）

1) 『西区街の名人・達人』の新規登録の呼びかけ

- ・ 「広報よこはま」コラムで紹介記事を掲載し、イベント等で積極的に登録の呼びかけを行いました。
- ・ 2019/3/31 時点の登録数 145 件。（2018/3/31 時点 120 件。25 件増加）

2) 『西区街の名人・達人』のコーディネート

- ・ それぞれの長所を活かしたコーディネートができるよう、職員が活動先に出向き、実際の活動の様子を知る機会を作りました。活動内容については、コーディネート時に詳しい情報を提供できるよう職員間で情報共有しました。

- ・コーディネートの相談があった際には、単なるコーディネートにとどまらず、相手のニーズを丁寧に聴き、地域や活動がより活性化するよう心掛けました。
- ・コーディネート 申込 48 件（前年比 104.3%）、成立 44 件（前年比 110.0%）

3)『西区街の名人・達人』の活動披露の場づくり

- ・「昼どきコンサート」や「来て・見て・聞いているの日」、「うたごえ広場」などで活動を披露する場を作りました。

●昼どきコンサート

- ・子ども連れでの参加や、障害者、高齢者施設からの参加も増えました。
- ・オカリナなど、コンサート後に習いたいという問い合わせが数件寄せられたケースもありました。
- ・ケアプラザのコンサートや地区センターの講座実施につながるケースもありました。

開催日	出演グループ（敬称略）	ジャンル	参加者数
2018/4/23（月）	古岩井序子 & 音緒の会	三味線	21 名
2018/5/28（月）	TH' s ファンタ sy	ミュージックベル&トーンチャイム	39 名
2018/6/25（月）	莉玲	ボーカル・手話ソング	21 名
2018/7/23（月）	日本の音色を楽しむ会	民謡	22 名
2018/8/27（月）	ママ音楽ユニット♪ショコラッティ♪	歌・楽器演奏	34 名
2018/9/25（火）	La Seed	クラシック音楽	31 名
2018/10/22（月）	藤田吟子	箏曲	42 名
2018/11/26（月）	TH' s ファンタ sy	ミュージックベル&トーンチャイム	51 名
2018/12/25（火）	La Seed	クラシック音楽	18 名
2019/1/28（月）	ママ音楽ユニット♪ショコラッティ♪	歌・楽器演奏	25 名
2018/2/25（月）	オカリナはま風	オカリナ	19 名
2018/3/25（月）	金子敏郎	カントリー & ウェスタン	30 名

計 353 名



●西区街の名人・達人によるミニ講座「来て・見て・聞いているの日」

- ・参加希望が増え、ひと月に2～3講座となる月もありました。
- ・人気の講座は希望者の要望を受け、年に3回の開催となったものもありました。講座開催後に希望者があつまり、自主グループや、自主企画の講座へ発展するものがありました。

開催日	題名	講師（敬称略）	参加者数
2018/4/17（火）	春の茶道体験	吉田宗玖	6 名
2018/5/8（火）	気軽にトールペイント	加藤幸子	6 名

2018/6/16 (土)	実は今だけ！新茶の魅力	井上香織	8 名
2018/7/10 (火)	消費者被害に遭わないために	NACS 東日本消費者研究会	5 名
2018/8/2 (木)	はじめての民謡舞踊	沼田幸恵	8 名
2018/8/19 (日)	莉玲さんのボイストレーニング	莉玲	22 名
2018/9/22 (土)	ハロウィンのミニタペストリー (3 回)	鈴木淳子	3 名
2018/10/8 (月)	ころばんよ体操	服部和男	5 名
2018/10/27 (火)	プロから学ぶフラメンコワークショップ	牛田裕衣	5 名
2018/11/18 (日)	莉玲さんのボイストレーニング	莉玲	12 名
2018/11/20 (火)	リボンで作るクリスマスリース	甘糟ますみ	19 名
2018/11/25 (日)	莉玲のボイストレーニング	莉玲	9 名
2018/11/30 (金)	干支の年賀状	吉田紅峯	8 名
2018/12/8 (土)	トールペイントのミニツリー	高野圭子	7 名
2018/12/10 (月)	ちゃぼさんと、打楽器を叩いてあそぼう！	加藤ちゃぼ	17 名
2019/2/10 (日)	みんなで楽しむおりがみ教室	芹澤洋子	6 名
2019/2/26 (火)	ハーバリウム ボールペン	甘糟ますみ	9 名
2019/3/7 (木)	3 B 体操	奥山麻弓	8 名

計 163 名



●うたごえ広場

- ・ 参加希望人数が多数となった為、年度途中から事前予約制・午前、午後の 2 部制となりました。
- ・ 毎回参加する方も多く、西区内他の施設での演奏依頼も増えました。

開催日	演奏者	参加者数
2018/5/13 (日)	いち座にしエイチファイブ	45 名
2018/7/8 (日)	いち座にしエイチファイブ	51 名
2018/9/16 (日)	いち座にしエイチファイブ	50 名
2018/11/11 (日) 午前の部	いち座にしエイチファイブ	22 名
午後の部	いち座にしエイチファイブ	23 名
2019/1/13 (日) 午前の部	いち座にしエイチファイブ	42 名
午後の部	いち座にしエイチファイブ	24 名

2019/3/10（日） 午前の部	いち座にしエイチファイブ	34 名
午後の部	いち座にしエイチファイブ	40 名

計 331 名



●出張コンサート

- ・にしとも広場へ来館しにくい地域にも活動を知ってもらう機会として、今年度より出張企画を始めました。第六地区の民生委員等で構成する三ツ沢ハイタウン福祉会からの依頼で、以下を実施しました。

開催日時・会場	題名	出演者	参加者数
2019/3/13（水） 10：00～12：00 @三ツ沢ハイタウン集会所	出張コンサート in 三ツ沢ハイタウン	LaSeed	45 名



4) 『西区街の名人・達人』のホームページ掲載情報の更新

- ・新規登録の際には速やかにデータベースに追加するとともに、ホームページでも紹介し、活動の周知に努めました。

5) 登録団体・者の活躍&交流の場（「おりがみカフェ」「みちあそび」）

●「おりがみカフェ」

- ・幼児から高齢者まで多世代が参加。飲み物・お菓子付きのカフェ形式にし、ゆったりと楽しむ空間を演出しました。おりがみ初心者から上級者までそれぞれの交流を楽しみました。
- ・おりがみカフェ終了後には、講師同士の交流会を実施し、互いの作品や活動・思いなどを話す時間を持ちました。

開催日時	内容	参加者数
2018/7/29（日） 10：00-12：00	「おりがみカフェ 夏」 西区街の名人・達人登録のおりがみ講師 3 組による おりがみ教室	41 名

2019/3/24 (日) 10:00-12:00	「おりがみカフェ 春」 西区街の名人・達人登録のおりがみ講師 3 組による おりがみ教室 (同時開催) 読み聞かせボランティア「えほんのはら っぱ」による、えほんの読み聞かせ	37 名
------------------------------	---	------

計 78 名



●「みんなで!! みちあそび」

- ・子育て世代にしとも広場を知ってもらうことを目的に、昨年に引き続き、2 回開催しました。
多くの親子が参加して、チョーク遊び、水あそびなどを楽しみました。
- ・9 月開催時には、昨年度の地域大卒業生でもある「浅間台みはらしプレイパーク運営委員会」がボランティアとして参加しました。

共催：NPO 法人はぐっと、公益財団法人よこはまユース

開催日時	内容	参加者数
2018/7/22 (日) 10:00-12:00	チョーク遊び、水遊び、カプラ、新聞紙遊び 会場：にしとも広場の屋内・屋外	81 名
2018/9/2 (日) 10:00-12:00		(雨天のため) 13 名

計 94 名



< 2 > 登録団体の更新および交流の促進

1) 登録団体の更新

- ・更新時に、団体活動の現状や、必要なニーズを把握するよう努めました。

- ・ 団体登録募集のチラシを作成し、登録することのメリットをわかり易く伝え、新規登録につながる工夫を行いました。
- ・ 2019/3/31 時点の登録数 186 件。（2018/3/31 時点 171 件。15 件増加）

2) 登録団体の交流

- ・ 登録団体及び西区街の名人・達人の交流会（「みなさん×にしとも広場 ～未来はココから～」）を実施しました。

開催日時：2019/3/1（金） 交流会 16:00－17:00 懇親会 17:00－19:00

参加者：25 名（内訳：登録団体 12 名、街の名人・達人登録 12 名、地区センター 1 名）

- ・ 交流会では、各々の活動について、しっかりと語り、じっくりと聞く時間を設け、今後の交流や協働のきっかけを創りました。また、当センターへ望む役割や、一緒にやりたい内容を伺い、次年度以降に一緒に考えていく課題を共有しました。
- ・ 懇親会では、楽器演奏や、マジックなど西区街の名人・達人の方々による、自主的な特技の披露もあり、その場で、コラボ企画や活動依頼が決まるなど、活発な交流が生まれました。

↓参加者が望む、にしとも広場とのつながりや、やりたいこと（抜粋）

にしきシティガイドグループ	にしとも広場には、SOS 対応の場を期待する
日本茶インストラクター	にしともティーパーティ、美味しい西区のお菓子自慢をしながらお茶を飲む
SIDE BEACH	IT ツールを使ったショーの開催
共育会	名達×教育という企画を出して欲しい。
ブリリアみらいコミュニティ	活動団体のノウハウの紹介/ノウハウの共有
鈴木太郎似顔絵教室	にしとも広場に、仲間の募集を手伝ってほしい
まちづくりエーгент	パソコン・スマートフォン相談受付の西区版
にしき名達の会	ボランティアをしてくれる、または一緒に活動してくれる人材を紹介して欲しい



3) 団体のステップアップにつながる講座の開催

- ・ 西区社会福祉協議会と共催し、「車いす体験ボランティア」講座を年 2 回開催し、地域の中で障がいを持つ人との共生や、ボランティア、福祉について考える機会を作りました。
親子での参加や、一人暮らしの高齢者の参加もあり、実際に車いすでの移動や、目隠しをしての歩行などを体験しました。
- ・ 2018/8/17(金) 5 名 10/15(月) 3 名



＜3＞西区民まつりへの参加

- ・ 当日は雨天となり、予定していたチョーク遊びができず、室内のみでの開催となりましたが、349 名（昨年度と同等）の参加がありました。
- ・ にしく名達の会、NPO 法人はぐっと、藤棚商店街などの協力を得てスタンプラリーを実施しました。
- ・ 西区街の名人・達人登録者への呼びかけを行い、講師の作品をスタンプラリー景品として寄贈を依頼、その他の景品についても咲弘洞（居場所）、夢づくり三番館（障害者就労移行支援施設）から購入するなど地域資源を活用しました。
- ・ 西区街の名人・達人に登録の「カタビラーズの戦隊ショー」や、情報紙にしとも広場 12 号取材団体「地域密着！着ぐるみ懐メロ音楽隊 日ノ出サンデーズ」のコンサート、自主事業を行う日本茶インストラクターのボランティア参加など、日々の関わりから生まれたつながりを大切にしました。



4. 地域支援事業

◆ 地域で活躍する人材の掘り起こしと養成

当センターに来館される「何かをしたい」「何ができるだろうか」「活動したいがどうしたらよいかわからない」というような思いを活動につなげるきっかけづくりをし、地域での活躍を促しました。

< 1 > 地域づくりの人材を養成する講座「西区地域づくり大学校」

1) 地域づくりの人材を養成する講座「西区地域づくり大学校 第7期（以下、西区地域大）」の開催

- ・本講座は、①講座後もつづく仲間づくり、②少人数制の連続講座、③講座終了後も“にしとも広場”が継続的に受講生を応援すること を特徴とし、全 6 回を区政推進課と協働で開催しました。
- ・日頃より身近な地域でつながる必要性が高まっていることを背景に、昨年度に続き、「居場所づくり」をコンセプトに、テーマは「自分らしさでつくるプラスワンのつながり」としました。全講座を通じて、居場所づくりの一步目となる、チャレンジプランの実践を後押しする内容としました。また、西区外も含めた、先駆的な事例の現場を実際に訪問し学ぶ機会を設け（第3講）、卒業後も受講生同士がつながり合えるように、コミュニケーションの時間を多く取り入れました（各講でワークショップ）。
- ・定員は、受講生同士のつながりや、受講後のフォローアップ体制を密にするため、今年度も 15 名とし、14 名の方が参加しました。参加者の年齢は、20 代から 70 代と、幅広い年代の方にご参加いただきました。（内訳：20 代 1 名、30 代 4 名、40 代 2 名、50 代 6 名、70 代 1 名）
- ・講座終了後は区役所と連携し、丁寧なフォローアップ・コーディネート heart を心掛けました。その結果、にしとも広場を利用した自主企画化や、地域のおまつりとコラボした企画の実施につながりました。



	日時・場所	テーマ・内容
1	2018/9/20 (木) 9:30-12:30 @西区役所 1 AB 会議室 受講者数: 11 名	『テーマ: 自分を再発見! 得意だったこと・好きだったこと』 ・オープニング (開講の挨拶: 寺岡洋志氏 (西区役所区長)、受講生自己紹介、ガイダンス) ・講義: 「自分を再発見! 得意だったこと・好きだったこと」 講師: 長田英史氏 (NPO 法人れんげ舎 代表理事) ・分かち合いワーク
2	2018/10/4 (木) 9:30-12:30 @にしとも広場 受講者数: 11 名	『テーマ: 歩き出した先輩から学ぼう』 ・実践者トーク「自分のやりたいことをどう実現していくか?」 コーディネーター: 吉原明香氏 (認定 N P O 法人市民セクターよこはま事務局長)、パネリスト: あずまっこ (西区)、ducks (泉区)、ご近所さん会 (緑区) ・グループワーク「実践のふり返りを通して自分らしさを再発見する」 講師: 吉原明香氏

3	(1)2018/10/11 (木) (2)2018/10/18 (木) (3)2018/10/27 (土) (4)2018/10/29 (月) 受講者数：延べ 22 名	『テーマ：体感しよう！いろんな居場所』 各回 2 時間程度で、現地見学を実施しました。見学先では、活動についての話、質疑応答を行いました。 ① 森ノオウチ（横浜市青葉区） 受講者数：3 名 ② 藤棚デパートメント（横浜市西区） 受講者数：7 名 ③ 道あそび神田スポーツ広場（東京都千代田区） 受講者数：2 名 ④ さかみち文庫（横浜市南区） 受講者数：10 名
4	2018/11/1 (木) 9：30-12：30 @にしとも広場 受講者数：13 名	『テーマ：活動をはじめるための土台作り』 ・講義「フラットな組織運営／情報発信の仕方」 講師：長田英史氏 ・個人ワーク：チャレンジプラン作成
5	2018/11/15 (木) 9：30-12：30 @にしとも広場 受講者数：10 名	『テーマ：活動プランの実行に向けて準備しよう』 ・グループワーク：「チャレンジプランを共有しよう」 ・講義「チャレンジプラン作成のコツ」 講師：吉原明香氏 ・希望者個別相談会 ・個人ワーク：ニュースレター（準備号作成） ・全体共有
6	2018/12/13(木) 9：30-12：30 @にしとも広場 受講者数：11 名	『テーマ：チャレンジプランの実践報告会＆修了式』 ・チャレンジプラン実践報告会 ・講義「受講生へのメッセージ：これからの活動に向けて」 講師：長田英史氏 ・修了式 ★修了者 11 名



<アンケートより>平均点 94 点（100 点満点中）

・何かやりたいと思っている方々とつながり合えたこと、自分の想いを表現できて共有できる場が持てたことは

とてもよかった。

- ・構造的なことから失敗を含めた体験談まで、毎回自分のことに重ね合わせて聞くことができた。会議については家族会議で試してみた。
- ・まずは自分であること。あり方を深く考える機会になった。
- ・こどもと一緒にというのを大切にしていますが、自分だけのタイミングだけではできないことも多く、それもまた良い時間に思えました。大変なこともありましたが、その時間の大切さに気づけた。

2) はじめての地域活動・市民活動応援講座（西区地域大プレ講座）の開催

- ・西区地域づくり大学校本校の講師の長田英史氏を講師に迎え、「居心地のよい場とは？」をテーマに開催しました。
- ・講座前半は長田英史さんの講演、会場中央図書館の書庫バックヤードツアー、後半は会場を移動し、CASACOの居場所見学と説明を受けました。
- ・プレ講座に参加した受講生6名が、西区地域大へ参加申込をし、地域大のプレ講座としても大きな役割を果たしました。

日時・場所	内容
2018/8/31（金） 10：00－12：30 @にしとも広場 受講者数：24名	・講演「居心地のよい場とは？」 ・中央図書館 バックヤードツアー ・地域の居場所見学 CASACO



<アンケートより> 平均点 83点（100点満点中）

- ・居場所づくりに関わっていなくても、既に私自身はいろんな場の中で生きていて、そこを居心地よくするためにできることがあるなあと感じながらお話を伺った。
- ・前半部分で「場づくり」について学ぶことができ、後半部分で実際に場づくりを行っている話をきくことができ、両者の話でつながるものを感じた。実際に活動している方の話を聞いたことはとてもためになった。
- ・活動することはすごく難しいことと思っていたが、今回の講義を聞いていろんな活動があることを知り、自分にもできることも何かありそうと思った。
- ・バックヤードツアーが想像外でとてもよかった。図書館をよく利用しているが、もっと気を付けて本を利用しなくてはと思った。
- ・カサコのような場所がもっと身近にたくさんあると良いと感じた。

<2> 地域活動・市民活動応援講座

ボランティアを始める上での心構えや実践者の話を聞く機会、実際の活動を体験してみる機会、気軽に参加できる趣味で集まる機会などを設け、幅広い層の活動参加を促しました。地域課題やニーズにあわせ、関連施設・機関と、企画段階から協力いただくなどの連携も考慮しながら実施しました。

1) 地域で生き生きイキメン講座

情報紙にしとも広場 12 号との連動企画として、地域での活動を生き活きと楽しんでいる男性（イキメン）をテーマに、前半は活動者のパネルトーク、後半は、活動場所の紹介として、区内の施設見学を行いました。

日時・場所	内容
2018/4/24（火） 10：00－15：00 @にしとも広場、戸部コミュニティハウス、藤棚デパートメント、 藤棚ケアプラザ、藤棚地区センター 受講者数：4名	・オープニング（自己紹介） ・講演「イキメンのすすめ！パネルトーク」 三宅和夫さん（ばあばの家あさだ）、北川洋（にしとも広場職員） ・ランチ交流会＆施設見学 戸部コミュニティハウス⇒藤棚デパートメント（ランチ）⇒藤棚ケアプラザ⇒藤棚地区センター



＜アンケートより＞

- ・みなさんのいろいろな経験やコミュニケーションを通じてつながる力が必要と思った。
- ・先輩活動者の実活動や考え方を知ることができた。コミュニティハウス、地区センター、地域ケアプラザの内容を知ることができた。
- ・ボランティアを通しての地域活動の幅広さを知った。

2) 地域で生き生きイキメン講座（パパ講座）

情報紙にしも広場 12 号との連動企画として、地域での活動を生き活きと楽しんでいる男性（イキメン）をテーマに実施しました。講演「パパの声が活きる読み聞かせ」の後、子どもと一緒に読み聞かせの体験をし、座談会では受講者のパパ同士が交流を図りました。

日時・場所	内容
2018/5/12（土） 10：00－12：00 @にしとも広場 受講者数：17名 （親子14名、地域の方2名 中央図書館1名）	・講演「パパの声が活きる読み聞かせ」 横浜ダディ（パパサークル）を主宰 北田 禅さん ・座談会 ※中央図書館の協力により「パパ向きの絵本一覧」 を配布、同時に絵本を展示



＜アンケートより＞ 平均点 98 点/100 点満点

- ・孤独だったパパとしての気持ちが心強くなった。
- ・父親同士コミュニケーションが取れる場としてとても有意義だった。
- ・絵本だけでなく育児全般の情報が共有できた。

3) 外国につながる子ども対象 日本語・学習支援ボランティア養成講座・にしともるーむ

- 西区でも近年増えている外国につながる子どもたち、その学習支援の場が必要とされていることから、「日本語・学習支援ボランティア養成講座」を実施しました。



日時・場所	内容
2018/7/9 (月) 15:00-17:00 @にしとも広場 受講者数: 23名	「外国につながる子どもたちのことを知ろう」 ・横浜市内・西区内の外国人住民の状況と 多文化共生の取り組み ・「外国につながる子どもたち」って？
2018/7/13 (金) 15:00-17:00 @にしとも広場 受講者数: 20名	「外国につながる子どもたちの支援について知ろう」 ・子どもたちの現状 ・支援の具体例 ・支援ボランティアになるには



<アンケートより> 平均点 1日目 86点 2日目 88点/100点満点

- ・横浜、西区における外国につながる親子の現状や活動の様子が具体的にわかった。
- ・学習言語能力と生活言語能力の明確な差・段階について知ることができた。
- ・ユツカの会の活動について、横浜の活発な市民レベルの活動があることを知ることができた。
- ・日本語が全くわからない中、日本の小学校へ毎日通う子供たちがたくさんいることを、改めて知ることができた。
- ・外国から来た子が言語の壁につまずき、「自分が馬鹿になった気がする」と言っている子がいるということは、ショックを受けつつも納得してしまった。言葉や文化の壁を乗り越えた先のことを考えて、向き合う必要があることを感じた。
- ・実際の学習者である子どもたちの事例を通じて、子どもたちにとって何が大事なのかという具体的な事を示してもらえたことは、とてもためになった。

- 本講座の修了生が中心となり、2018年9月より学習支援教室「にしともーむ」を開始しました。

(毎週火曜日 16:00~17:00、第1・3土曜日 10:00~12:00 実施)

様々な国につながる子ども8名程度の小学生が通い、ボランティアの方とマンツーマンで、宿題など、自分に必要な勉強をしました。

2018/9~2019/3 実施回数 41回 子ども述べ参加数 113人



4) 情報発信基本のキ

活動団体の情報発信力の向上を目的として、情報発信の基本の考え方、発信物のブランド化、情報発信のスケジュール管理、簡潔に相手に活動内容を伝える大切さなどについて学び合いました。

日時・場所	内容
2019/2/26 (火) 13:30-15:00 @にしとも広場 受講者数: 23名	・講義「共感を生み出す情報発信」 講師: 株式会社イータウン 代表 斉藤保氏 ・終了後 参加者茶話会



<アンケートより> 平均点 90点/100点満点

- ・地域で活動することについて、いろいろな視点で考えることができていいなと思った。講座を受ける時間の中に

- ワークがあって、みなさんのお話を聞くこともできて良かった。ニュースレターの見せ方、勉強になった。
- ・信頼法則（ブランド）3 回の法則の良さと怖さ、どうやって本当の信頼を勝ち取るのか考えさせられた。
 - ・チラシづくりセミナーと思いきや、FB や WEB の活用も教えていただくことができ嬉しかった。
 - ・チラシ作成などの活動はキチンとできていると思うが、配付の仕方、場所への手渡しの際のひと言が足りなかったと思う。ロゴを入れたチラシ作成、これはぜひ活用したい。
 - ・チラシ一枚にも、前々からの準備や構想をしっかり持つことが大事だとわかった。

＜3＞意見交換会の実施

自治会町内会、センター利用者、地域人材ボランティア、区内関連施設などの方々にお集まりいただき、当センターの事業や役割について、また地域にある課題やニーズについてなど意見交換をしました。

開催日時：2019/3/29（金） 16：00－17：30

参加者：以下 9 名

西区第五地区自治会連合会 会長 平野 周二さん
西区第四地区社協 会長 米岡 美智枝さん
藤棚一番街協同組合 理事（今井かまぼこ店） 今井 宏之さん
藤棚一番街協同組合 理事（藤棚デパートメント） 永田 賢一郎さん
西区在宅介護者のつどいあけぼの会 代表 竹下 淳子さん
にしく名・達の会 会長 服部 和男さん
NPO 法人西区はーとの会 理事長 三宅 義子さん
ガッツ・びーと西 施設長 阿部 浩之さん
西区子育て支援拠点 スマイルポート 施設長 山田 美智子さん

＜ご意見より＞

- ・地域大の修了式などに地区社協にも声をかけてもらい、地域での卒業生とのつながりを作れたらよい。
- ・にしとも広場の情報発信は有効。情報紙など、これからも発信を続けてほしい。
- ・にしとも広場が中心となって、いろいろな面でのきっかけを作ってほしい。
- ・顔と顔のつながりが有難い。これからはもっとつながりを作ってほしい。

5. 区・区民利用施設等との連携事業

◆地域力アップを目指し、地域情報の共有と連携の促進

＜1＞区民利用施設等との連携会議の実施（年 1 回）

地区センターやコミュニティハウスなど、情報共有の機会を持ちにくい施設もあるため、貴重な情報提供・共有の場となりました。今年度は、連携に進むきっかけの工夫として「お土産カード」を用意しましたが、「お土産カードがあったので、すぐに連絡したり、行動に移すことができた」との感想を複数いただきました

日時・場所	内容
2018/12/21（金） 14：00－16：00 @西区役所 3 B会議室 参加：14 施設・1 課、 18 名	①高齢・障害支援課による情報提供 ②事前アンケートをもとにした事業発表・共有 ③お土産カードの記入（各施設に「いいね」「一緒に」の点で記入する） ・事前アンケートとして「今年度の連携事例、次年度の事業、ちょっと困っていること、一緒にしたいこと」を各施設から提出してもらい、とりまとめ一覧にしたものを当日全員の手元資料としました。 ・お土産カードの記載内容は、後日とりまとめ、一覧にして施設間で共有しました。

＜2＞センター事業における区内施設等との連携

●横浜市中心図書館との連携

昨年度開催した「未就学児向け読み聞かせボランティア講座」受講生を対象とした「フォローアップ講座」を12月に共催しました。受講後は活動グループとして立ち上がるよう支援し、「おりがみカフェ春」にて最初の活動機会を設けました。（P.10 参照）

●高齢・障害支援課との連携

地域で支える認知症を考える講座として、企画から、講師選定・依頼、広報などで連携し、両主催の講座として11月に開催しました。（P.3 参照）

●生活支援センターにし との連携

昨年に引き続き、『精神障がいについて 当事者から学ぶ』として、生活支援センターにしの利用者の方に登壇いただく講座を11月に開催しました。登壇することが、ご自身の自信やステップアップにつながると、双方にとって開催意味のある講座となりました。（P.3 参照）

＜3＞地域振興課が実施する生涯学習・市民活動支援講座「わが町、西区を知る講座」の運営支援

- ・「わが町、西区を知る講座」第3期の運営を支援しました。（2018年10月～2019年3月）
- ・第1期・第2期の事後グループが自主化・自立化するための支援を行いました。
- ・ガイドグループ「にしきシティガイドグループ」の活動支援として、当センターの活動団体、西区街の名人・達人の登録へつなげ、地域振興課と連携して活動定着を図りました。また同グループについて、情報紙「にしとも広場 13号」にて取材・掲載しました。

6. 施設環境への取り組み

◆ 小さな出会いを大切に、つながり・活動を育む、居心地の良い場へ

区民まつりやイベントに参加した親子が、友だちと一緒に来館し、キッズコーナーで子どもを遊ばせながら子育てイベントのチラシを見たり、地域づくり大学校の参加者が「にしとも広場」を使ってイベントを開催したりと、小さな出会いが次につながっています。丁寧な対応や、適切な情報提供と共に温かな場づくりを心掛け、「とりあえずにしとも広場に行ってみよう」、そう感じていただけるような、つながり・活動を育む場を作りだせるよう工夫しました。

1) 誰もが立ち寄りたくなる場づくり （再掲）

- ・昨年に引き続き、「昼どきコンサート」など、誰もが気軽に参加できるイベントを開催しました。

- ・ 参加者同士が知り合える、何となく仲良くなれるきっかけづくりを心掛けました。
- ・ 地域人材ボランティアバンクの登録者の発表の場としても活用しました。

2) 居心地の良い環境づくり

- ・ コーヒーコーナーとキッズコーナーを設け、居心地の良い空間を創りました。コーヒーコーナーを利用して、地域の方が休憩したり、区役所帰りの親子連れが食事をするなど、小さな居場所としての活用につながりました。
- ・ 配架しているチラシの中から、おススメ情報をピックアップして、入り口の掲示板に貼り出しました。
- ・ センターに立ち寄られた方に、センターを利用しての活動を積極的に呼び掛けました。



3) 施設内安全への配慮

- ・ チラシ配架のラックの状態や、掲示物については画鋲が取れていないかなどを確認しました。
- ・ 月に 2 回、日を定めて設備や機材を点検し、安心して利用できる環境とし、事故を未然に防止しました。
- ・ ノロウイルス対応セットを設置し感染拡大を防ぐよう努めました。

7. 職員配置体制・資質向上への取り組み

◆日頃からのコミュニケーションを大切に

職員個々のモチベーションはセンターの雰囲気にも影響します。日頃からのコミュニケーションを丁寧に行うことは、職員間の人間関係や、センターの雰囲気づくりや居心地のよさにつながると考えます。研修については、今年度も常勤・非常勤ともに、内外の研修に参加し、スキルアップと新しい視点を取り入れるよう努力しました。地域の中へも積極的に出向き、コミュニケーションの中で生きた情報の橋渡しができるよう心掛けました。

1) 現場訪問

- ・ 市民活動や地域活動の現場に出向く機会を大切にしました。
- ・ これらを職員間で共有する機会を設け、相談対応力やコーディネート力のアップにつながるよう努力しました。



〈くつろぎサロン〉



〈あまねちゃんカップ〉



〈ばんざいサロン〉

2) 相談力向上に向けた研修の実施（再掲）

- ・ 職員全員で行う会議において、定期的に、最近 1 か月で行った相談対応の中の、気になる事例をピックアップし情報を共有しました。また、内容について検討し、今後のよりよい対応につながるよう努力しました。
- ・ 職員研修において、相談対応における基本の 3 つのステップ（インテーク、コーディネート、クロージング）を再確認しました。

- ・ 活動団体、地域住民の方と一緒に学ぶ研修を開催し、共に学びながら基礎知識を高め双方のスキルアップにつながる機会を作りました。

3) 防災・減災、防犯、個人情報保護などに対応した研修の実施

- ・ 利用者がいる場合の地震や火災などの緊急時の対応や、不審者が来た場合の対応を職員会議等を通し学びました。
- ・ 個人情報保護に関する研修を全職員参加で実施し、さらに、日々の業務の中における情報漏えいを起こさない仕組みを全員会議で点検しました。
- ・ AED や心肺蘇生法の研修を全員が年 1 回受ける機会を設け、救急救命の基本を再確認しました。

4) 他区の区版支援センターとの情報交換および交流、研修への参加

- ・ 横浜市民活動支援センターが実施する研修および、ネットワーク会議に参加し、他地域の先進事例を学びあい、また、積極的に情報交換を行いました。
- ・ 相鉄沿線 6 区市民活動支援センター会議に参加し、情報の共有を含め連携を深めました。（年 1 回開催）
- ・ 他区のセンターを見学し、事業展開の方法や相談対応方法について、またセンター内の掲示物や配架方法の工夫について学ぶ機会を持ちました。

5) 外部研修への参加

- ・ 各職員が、自主的に、自らの成長に必要と考える研修に参加しました。

参加研修（抜粋）

開催日	研修名	主催等
4/20	子どもたちの居場所-外国につながる子どもたち-	特定非営利法人サードプレイス
7/20	中間支援組織スタッフのためのパワー支援力アップ	東京ボランティア・市民活動センター
6/28-9/27	地域活動を始めた人たちのための発信力 UP 講座	特定非営利活動法人森ノオト
8/24	生活困窮者支援からみた地域のつながり	生活創造空間にし
9/7	生涯学習実践研修「どうしたらできるの？事後グループ」	生涯学習・市民活動・地域支援関係職員研修
9/25	私たちの「共生」	NPO 法人びーのびーの
10/16	「ともに歩んで・ともに支え合う」	にこまちステップ・アップ講座
11/16	コーディネートの思考プロセスを鍛えよう	横浜市民活動支援センター
11/6-11/27	NPO スキルアップ講座 新聞記者に学ぶ発信力アップ講座	ソーシャルコーディネートかながわ朝日新聞ジャーナリスト学校
1/29-2/22	空き家を使った地域価値の創造講座	ソーシャルコーディネートかながわ NPO 法人モクチン企画
2/2-2/3	障害のある人とともに取り組むインクルーシブデザイン	NPO 法人よこはま地域福祉研究センター
1/12-1/13	コミュニティオーガナイズングワークショップ	コミュニティオーガナイズングジャパン
1/31	障害者権利条約について振り返る	生活創造空間にし

8. 西区役所との協働

1) 定例会議や組織会議でお互いの成果や課題を丁寧に共有

- ・ 定例会議を月 1 回実施するほか、日常的にお互いの事業やそれに関わる情報を共有しました。
- ・ 地域振興課管理職と当法人事務局長及びセンター長との会議の場「組織会議」を、四半期毎に設けました。センター運営状況や組織が一体となって運営していることをお互いに理解し共有し、信頼関係をさらに強めました。

2) 協働契約書を締結し、センターの事業目的の共有と双方の強みを活かした運営の実現

- ・ 区役所と民間である当法人が協働で事業運営に取り組むことで、双方の強みを生かし、相乗効果が得られるような運営としました。
- ・ 区役所幹部と当法人役員の意見交換の場を設け、センターの方向性を共有しました。

3) センター運営に関する協働のふりかえりの実施

- ・ 年度終了後に、「協働に関する相互検証シート」をお互いに作成し、にしも広場の運営を協働で取り組んだことに関してふりかえりを行いました。

以上

